

三重県内健診データを用いた貧血の予測因子解析

○西川政勝¹、吉澤秀樹¹、伊藤勝英¹、西村有起²

(1 : (一財) 近畿健康管理センター三重事業部 2 : 三重大学医学部附属病院・臨床研究開発センター)

【目的】

2017年度に三重県下で実施された健診受診者(約15万人)の匿名化したKKCデータベースを用いて、貧血(男性Hb<13.0g/dl、女性Hb<12.0g/dl)の割合、年齢分布およびその要因を調査・解析することで貧血の予防、生活習慣の改善や保健指導/受診勧奨/緊急連絡に有効利用する。

【方法】

KKC三重事業部において、2017年4月から2018年3月までの1年間に健診等をうけた受診者約15万人の内、血液検査が実施されていた99,340名(男性67,877例、女性31,463例)を対象に分析、解析を行った。受診勧奨値は男性Hb<12.0、女性Hb<11.0、パニック値(緊急連絡)は男女ともHb<6.0とした。

【結果】

Hb(g/dl)分布は、男性の中央値15.1(14.5-15.8)、女性の中央値13.9(12.4-13.8)であり、貧血は、男性では2.1%(ピークは60-64歳)、受診勧奨値は0.61%、パニック値は0.00%、女性では14.9%(ピークは40-45歳)、受診勧奨値6.86%、パニック値0.06%に認められた。貧血者のMCV値分布では、男性では正球性貧血が58.7%次いで小球性貧血30.2%であったが、女性では、小球性貧血が72.3%、次いで正球性貧血32.0%であった。多変量解析では、予測因子は男性では50歳以上、悪性新生物、クレアチニン高値等であり、女性では年齢<50歳、動脈硬化性疾患、血小板増多症等であった。

【結論】

本横断研究では、貧血は男性より女性に多くしかも受診勧奨値及びパニック値についても女性により多いことが示された。また、貧血のMCV分布が女性と男性で異なること、多変量解析について貧血の予測因子が男女で異なることが示された。貧血に関するデータベース解析は、保健指導、医師指導、緊急連絡に有効活用が期待される。今後、5年間の縦断研究等更なる解析を行う予定である。